

私的録音をめぐる実情の変化等

平成18年5月17日
文化庁長官官房著作権課

目 次

1 私的録音にかかる音源等について

- ①音楽ソフト、音楽ビデオ（DVD）、音楽配信事業の売り上げの推移
- ②レコードレンタル市場の推移
- ③（社）日本音楽著作権協会における使用料の推移
- ④配信事業におけるコピー制限ルール例
- ⑤ファイル交換ソフトによる音楽の複製量（推定）

2 私的録音に用いられる機器・記録媒体について

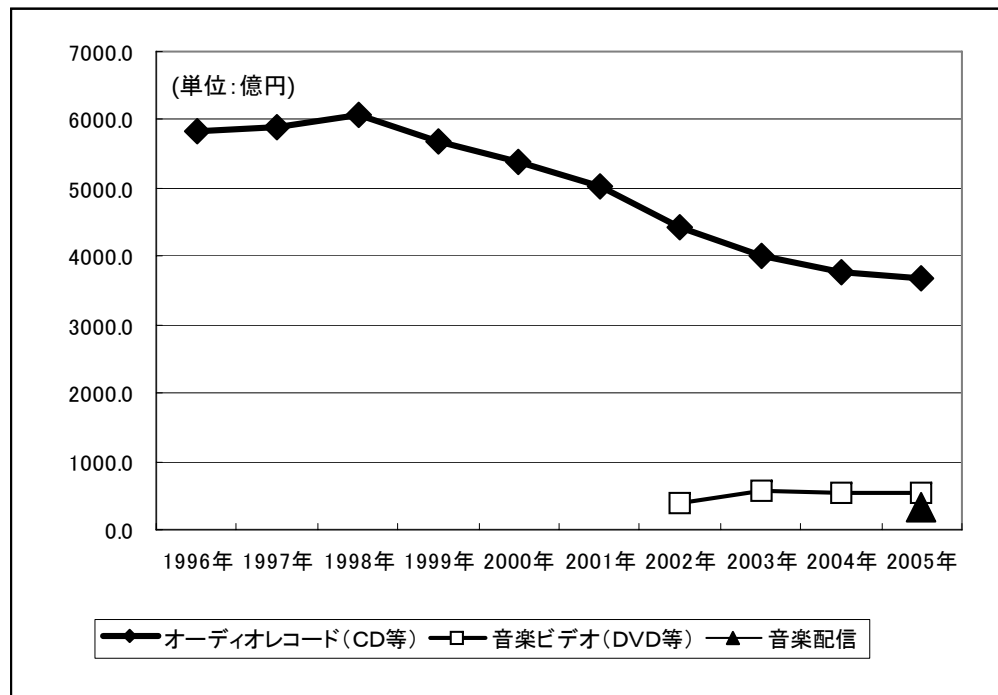
- ①携帯オーディオプレーヤーの国内出荷台数
- ②パソコンの国内出荷台数
- ③記録媒体の需要

3 私的録音の実態について

- ①私的録音の回数
- ②私的録音の音源
- ③私的録音の理由
- ④私的録音補償金の総額

1 私的録音にかかる音源等について

①オーディオレコード、音楽ビデオ、音楽配信事業の売り上げ推移



○レコード売上は、1998年をピークに下落傾向。ただし、2006年1～3月期については、前年同期を上回った。

○音楽配信は、売上ベースでは、2005年の段階では、その市場規模は、オーディオレコードの10分の1。

(単位: 百万円)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
オーディオレコード (CD等)	583,862	588,019	607,494	569,551	539,816	503,061	443,771	399,690	377,369	367,237
音楽ビデオ (DVD等)							37,683	56,489	53,900	54,973
音楽配信										34,283

【オーディオレコード・音楽ビデオ】(社) 日本レコード協会会員社に係る生産実績 (会員社が輸入した輸入盤及び非会員社からの販売受託分を含む)

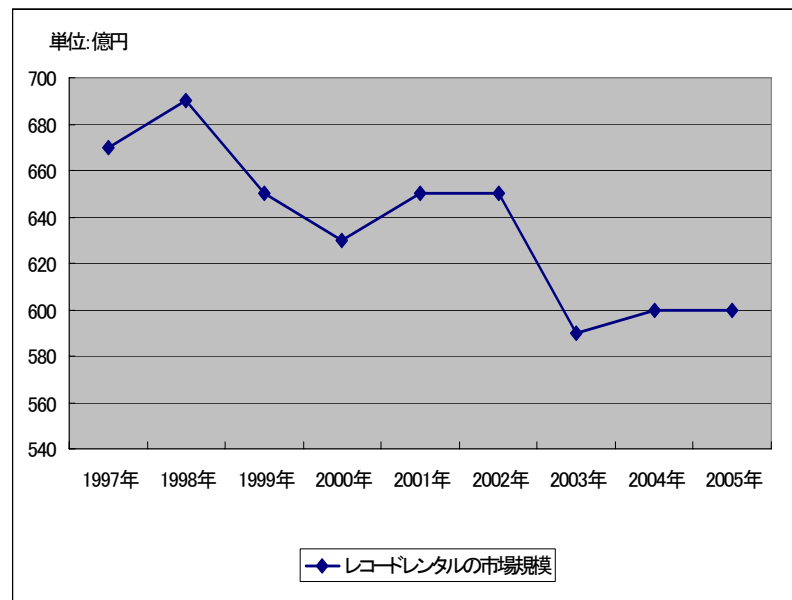
【音楽配信】(社) 日本レコード協会会員社が、販売主体として、または配信事業者にライセンスをして配信を行っている音源等に係る売上実績

(販売主体となっている場合、着メロ、着うたを含む)

空欄は、統計調査未実施

(出所: (社) 日本レコード協会)

② レコードレンタル市場の推移



	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
レコードレンタルの市場規模	670	690	650	630	650	650	590	600	600

※ 当協会推計値

(参考) CDレンタル店数と開業・閉店の推移

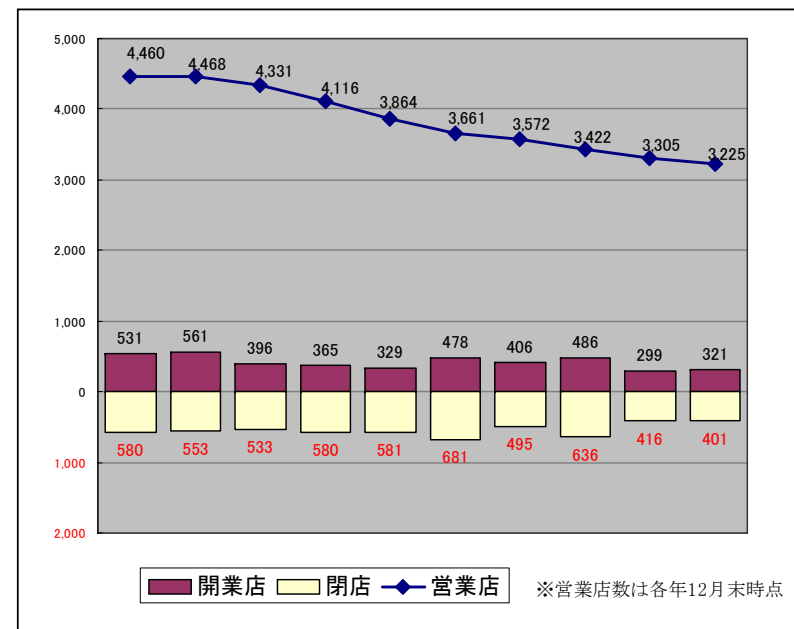
年度	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
開業店	531	561	396	365	329	478	406	486	299	321
閉店	580	553	533	580	581	681	495	636	416	401
営業店	4,460	4,468	4,331	4,116	3,864	3,661	3,572	3,422	3,305	3,225

(参考) CDレンタル店数と開業・閉店の推移

CDレンタル店舗数は、1989年末の6,213店をピークに毎年減少を続け、2005年7月末現在で3,247店と前年比2.9%減、89年対比で48%減。

また、今年1月から7月までの間に、新規開業店は174店、閉店は232店と、406店が入れ替わっている。

(単位: 件)



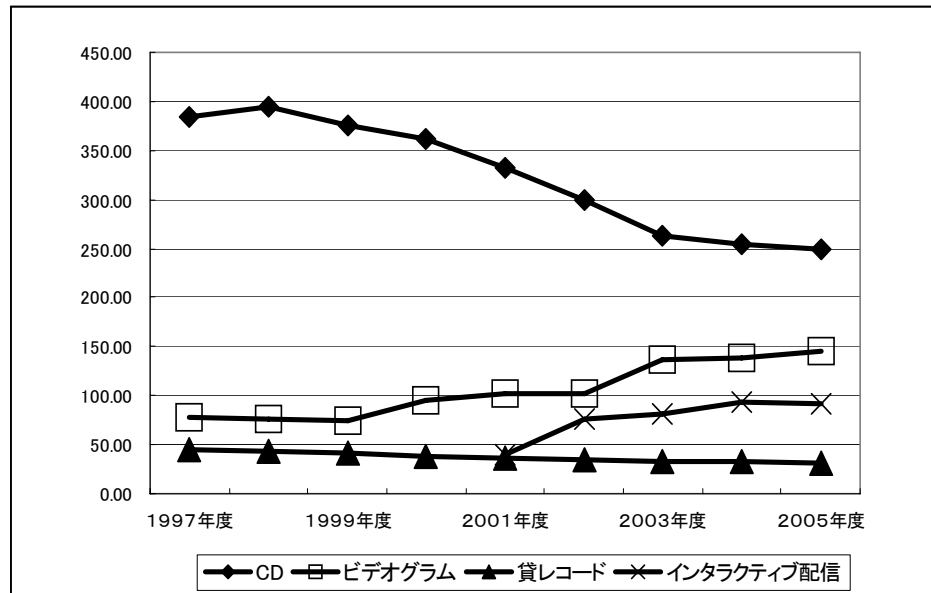
(単位: 億円)

(出所: 毎年4~7月実施のCDレンタル店実態調査に基づく(社)日本レコード協会推計値)

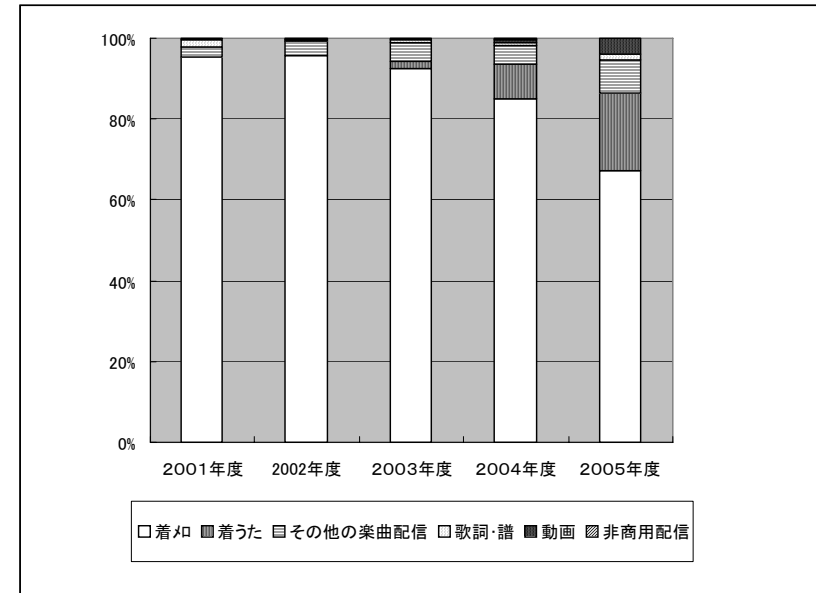
③（社）日本音楽著作権協会における使用料の推移

（CD、ビデオグラム、貸レコード、インタラクティブ配信）

（単位：億円）



（インタラクティブ配信の内訳と構成比）



※インタラクティブ配信の内訳については、（内訳と構成比）の表を参照ください。音楽配信、着うたフル等については、その他の楽曲配信に含まれる。

（単位：億円）

	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
CD	384.28	394.32	374.98	362.15	332.12	300.01	262.75	254.77	249.77
ビデオグラム	77.36	76.77	74.96	94.43	102.67	101.32	137.11	139.17	144.66
貸レコード	44.40	43.92	41.36	38.31	36.49	34.84	32.98	32.06	31.10
インタラクティブ配信					40.09	76.57	82.14	92.73	92.09

（インタラクティブ配信の内訳と構成比）

構成比(%)	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
着うた	95.6	95.6	92.4	85.0	67.1
着うた目	0.0	0.0	2.0	8.7	19.3
その他の楽曲配信	2.4	3.6	4.5	4.7	8.1
歌詞・譜	1.8	0.6	0.7	0.8	1.6
動画	0.0	0.0	0.2	0.7	3.7
非商用配信	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1

（出所：（社）日本音楽著作権協会）

④配信事業におけるコピー制限ルール例

会員社名(注1)	Fair Play (iTunes Music Store) (注2)			OpenMG (MORA)			WMA (多数の配信サービス)		
	PCへの複製	CD-R/RWへの書込み	携帯プレーヤへの複製	PCへの複製	CD-R/RWへの書込み	携帯プレーヤへの複製(注3)	PCへの複製	CD-R/RWへの書込み	携帯プレーヤへの複製
A社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限
B社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	5回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	5回まで
C社	(未提供)			ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで
D社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	5回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	25回まで
E社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限
F社	(未提供)			ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで
G社	(未提供)			ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで
H社	(未提供)			ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	3回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	3回まで
I社	(未提供)			ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	禁止	3回まで
J社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限	(未提供)		
K社	同時に最大5台まで	同一プレイリストは7枚まで 音源単位では無制限	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限	ダウンロード時に利用した1台のパソコンのみ	音源ごとに10枚まで	無制限

注1 (社)日本レコード協会正会員社の一部について調査。

注2 FairPlayにおいては、配信事業者が決めたコピー制限ルールに統一される。

注3 OpenMGにおける携帯プレーヤへの複製は、全てチェックアウトによるもの。

(なお、「チェックアウト」とは、音楽配信等に用いられるDRMの一部で採用されている複製方式で、携帯プレーヤ等に複製した音源をPCに戻すことで複製可能回数を元に戻すことができる)

(出所:(社)日本レコード協会)

⑤ ファイル交換ソフトによる音楽の複製量（推定）

ファイル交換ソフトの利用者が、無断でアップロードされた音楽ファイルから、2004年の1年間に、ダウンロードした数は、1億900万ファイル（曲）以上と推定される。

○ファイル交換ソフトの「現在利用者（調査時より半年以内に利用したことがある者）」は約127.4万人

○「現在利用者」が過去1年間にダウンロードした音楽ファイル数は平均95.2ファイル

○利用者がダウンロードした音楽ファイルの90%が著作権があるものと推定される。

※ 上記から、 $95.2 \text{ ファイル} \times 0.9 \times 127.4 \text{ 万人} \div 1 \text{ 億}900 \text{ 万ファイル（曲）}$ が、ファイル交換ソフトの「現在利用者」により2004年の1年間にダウンロードされたものと推定される。上記には「過去利用者（調査時より半年以前に利用していた者）」が含まれないことから、ファイル交換ソフトの利用者全体によるダウンロード数は上記の数字を上回るものと考えられる。

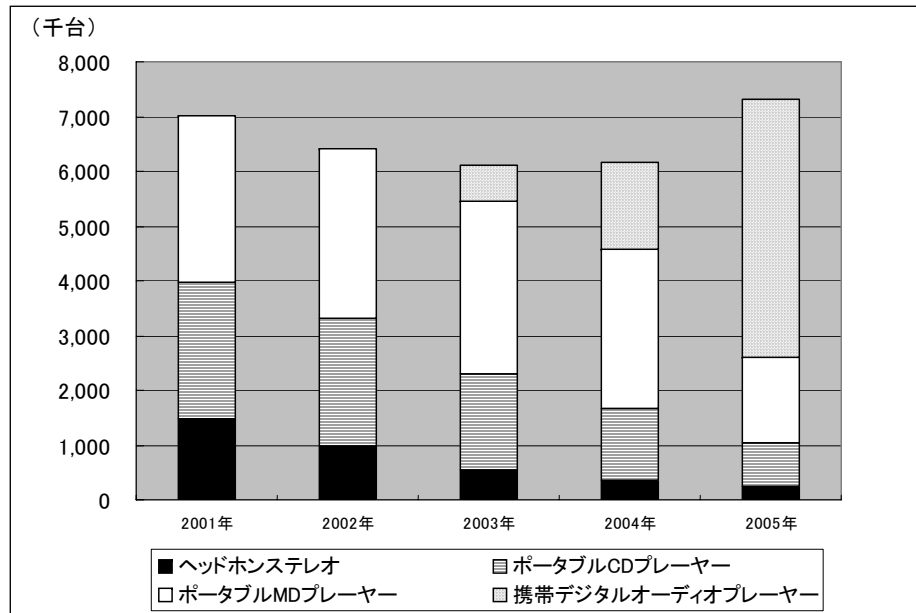
（出所 （社）コンピュータソフトウェア著作権協会及び（社）日本レコード協会が共同実施した「2005年ファイル交換ソフト利用実態調査」（2005年1月14日～18日調査）より

2 私的録音に用いられる機器について

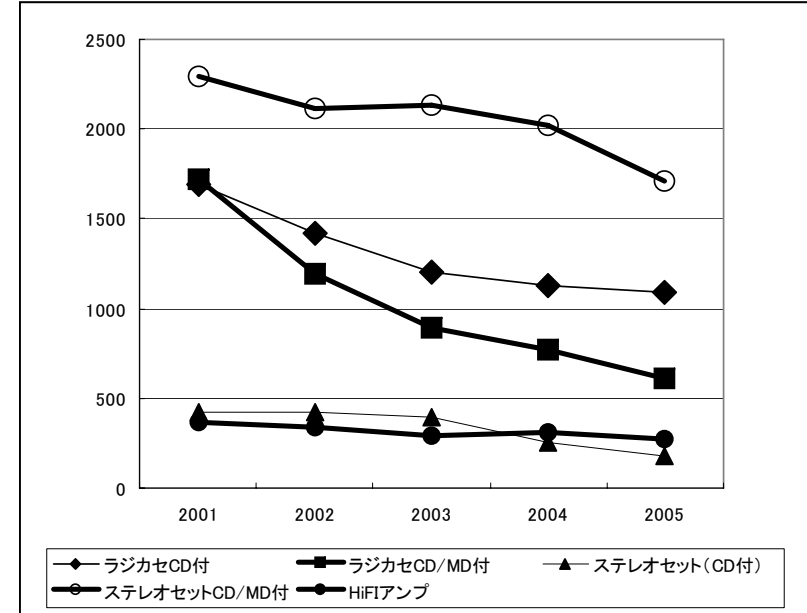
①携帯オーディオプレーヤーの国内出荷台数

➤ 携帯デジタルオーディオプレーヤーの出荷台数が急速に拡大している。

○ 携帯用オーディオプレーヤー



(参考) 据え置き型機器

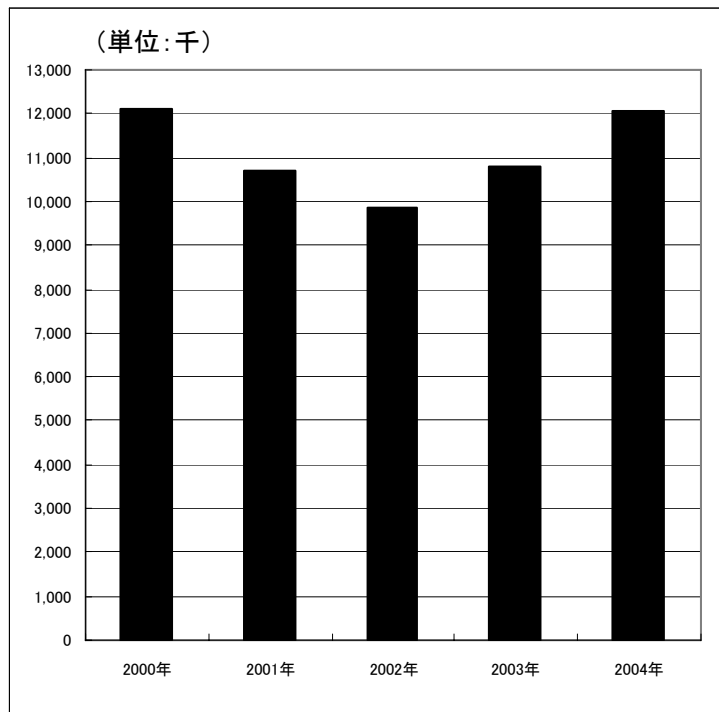


○携帯用オーディオプレーヤー	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
ヘッドホンステレオ	1,490	977	552	355	238
ポータブルCDプレーヤー	2,492	2,350	1,737	1,311	794
ポータブルMDプレーヤー	3,036	3,082	3,173	2,907	1,575
携帯デジタルオーディオプレーヤー	-	-	650	1,600	4,700
合計	7,018	6,409	6,112	6,173	7,307
(参考)据え置き型機器					
ラジカセCD付	1,691	1,419	1,200	1,131	1,093
ラジカセCD/MD付	1,724	1,190	894	772	608
ステレオセット(CD付)	421	426	391	253	180
ステレオセットCD/MD付	2,297	2,111	2,134	2,018	1,709
HiFiアンプ	366	339	295	307	274
合計	6,499	5,485	4,914	3,350	3,864

(単位:千台)

(出所: JEITA統計資料「民生用電子機器国内出荷台数」、「携帯デジタルオーディオプレーヤー国内需要推移」については(電波新聞社、2006年4月17日刊))

② パーソナルコンピュータの国内出荷実績、平均保有台数の推移とパソコンの保有率



↑ パーソナルコンピュータの国内出荷実績

(出所: JEITA統計資料)

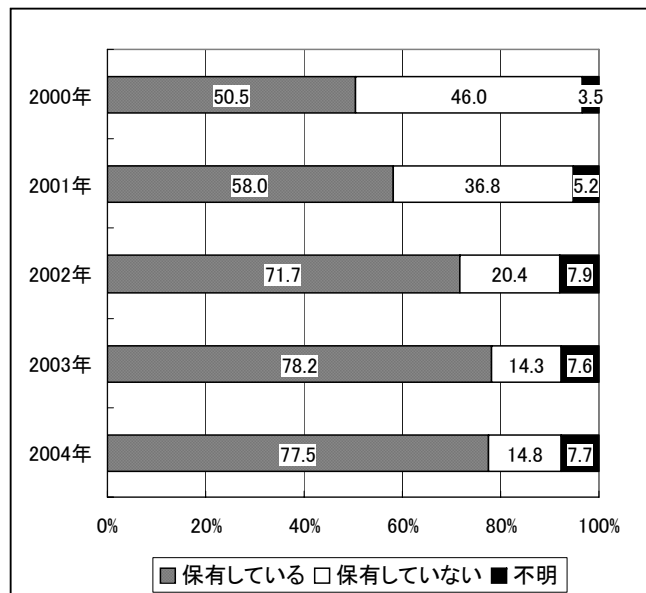
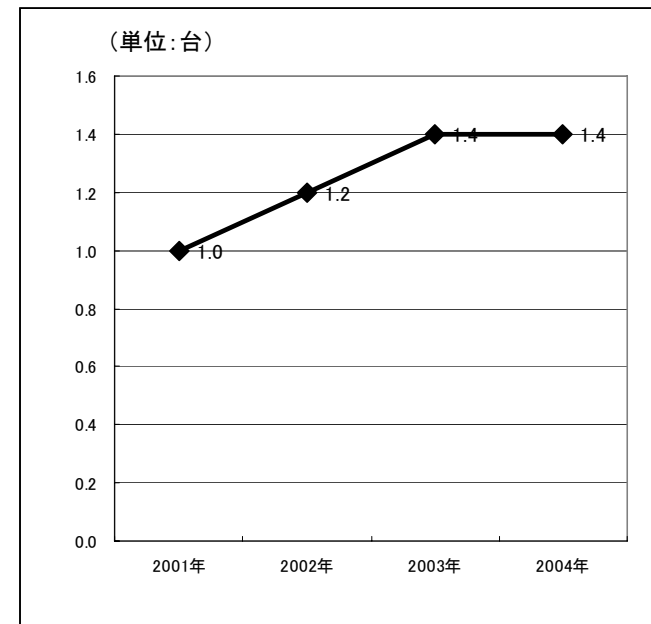
「民生用電子機器国内出荷台数」

世帯別平均保有台数

→ (出所: 総務省『平成16年「通信利用動向調査」』)

世帯別パソコンの保有率 ↓

(出所: 総務省『平成16年「通信利用動向調査」』)

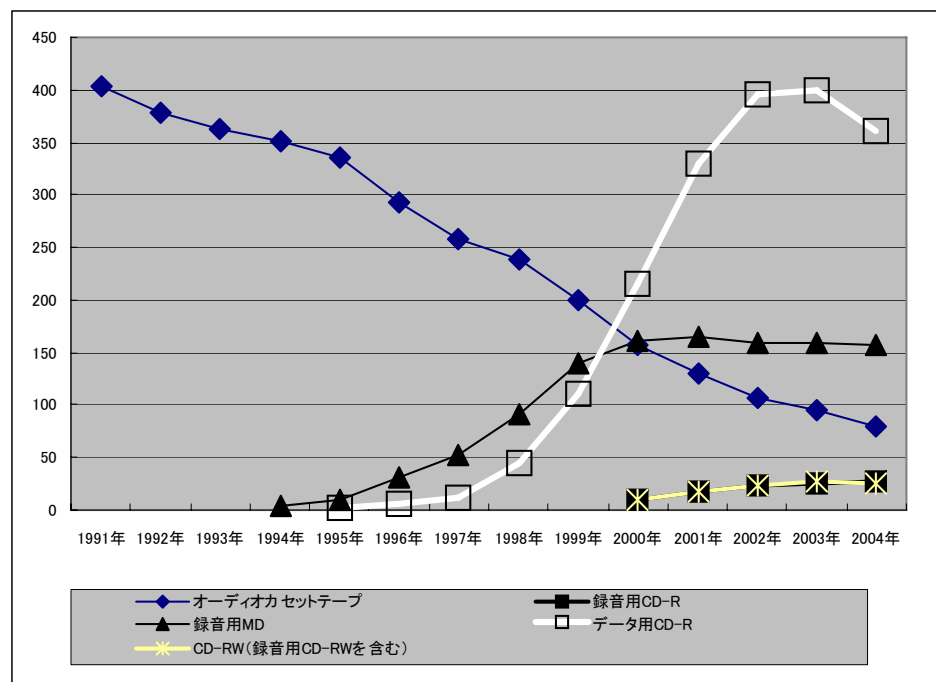


(単位:百万)

③ 記録媒体の需要

- MD、CD-R等の記録媒体の需要が、オーディオカセットテープの需要を上回り、アナログからデジタルへの代替が行われていることがうかがえる。

(出所：日本記録メディア工業会発表 需要推移
「● AVメディア国内需要推移 1988年～2004年」)



(単位:百万)

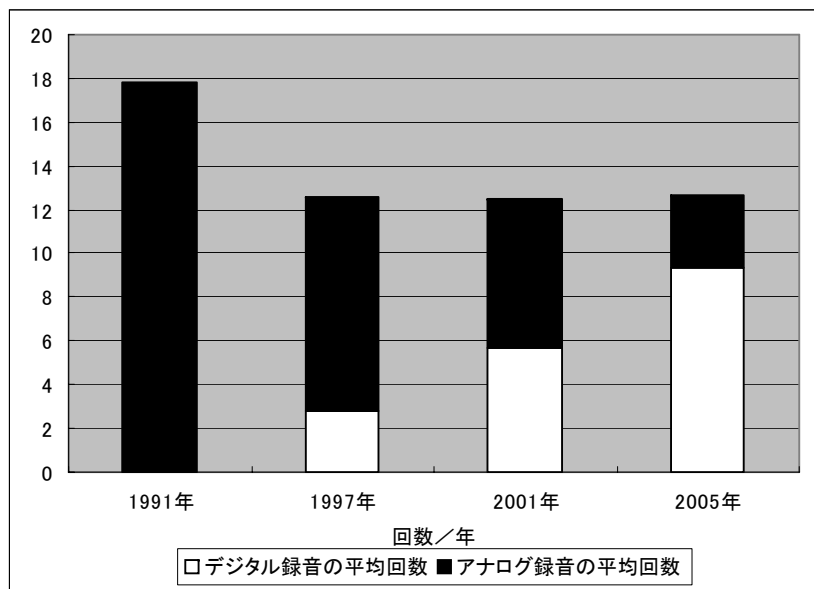
	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年
オーディオカセットテープ	404	378	362	351	336	293	258
録音用CD-R							
録音用MD				3.7	10	31	53
データ用CD-R					2	5	11
CD-RW(録音用CD-RWを含む)							
	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
	238	200	157	130	107	95	79
			9	18	23	25	28
	92	139	161	164	159	160	158
	45	111	216	329	395	400	360
			10	17	24	27	25

3 私的録音の実態について

① 私的録音の回数

- アナログ・デジタルを含む全体の私的録音の平均回数は、1991年～2001年で落ちているが、平成9年以降は13回弱で横ばいで推移している。
- デジタル機器の普及により、デジタル録音がアナログ録音を代替しつつある様子がうかがえる。

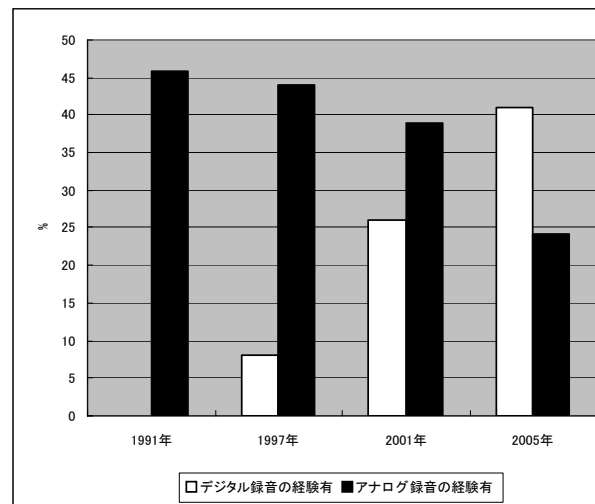
1人あたりの私的録音の年間平均回数



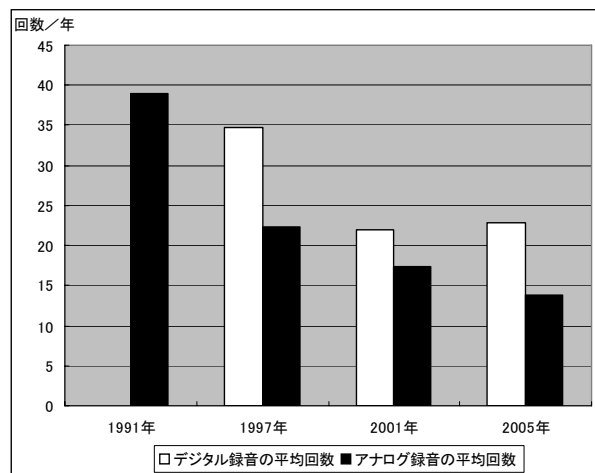
(出所)「私的録音・録画に関する実態調査」(平成3年、私的録音録画に関する実態調査委員会)、
「私的録音に関する実態調査」(平成10年、平成14年、平成18年、私的録音補償金管理協会)をもとに作成。
(備考)平成3年についてはデジタル私的録音の実態がなかったことから、調査をしていない。

<内訳>

1年以内に私的録音の経験がある者の割合



私的録音経験者における平均回数



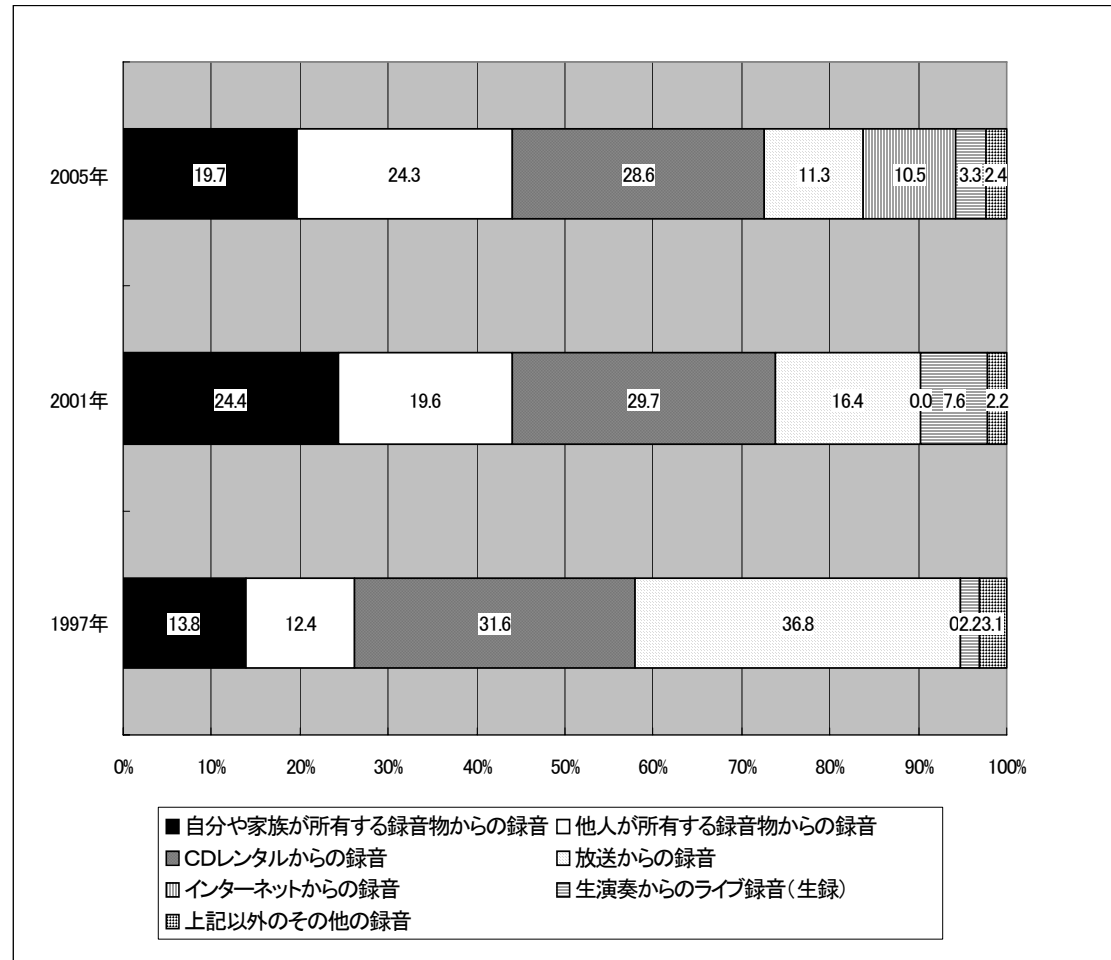
② 私的録音の音源

- 2005年の調査において総録音回数の比率が最も高いのは、「CDレンタルからの録音」の28.6%である。
- 「インターネットからの録音」は2005年からの調査であるが、その総録音回数の比率は全体の10.5%である。パッケージからの録音と比べるとその割合は小さい。
- 1997年と2005年の調査を比較すると、放送からの録音が極端に減った(36.8%→11.3%)。また、他人が所有する録音物からの録音が増えた(12.4%→24.3%)。

(出所)「私的録音に関する実態調査」(平成18年、私的録音補償金管理協会)をもとに作成

(備考)「総録音回数比率」とは、各録音源から録音している人の人数に平均録音回数を掛けた総録音回数の各録音源別にみた構成比のことを指す。また、「インターネットからの録音」の項目については、平成17年より調査開始。

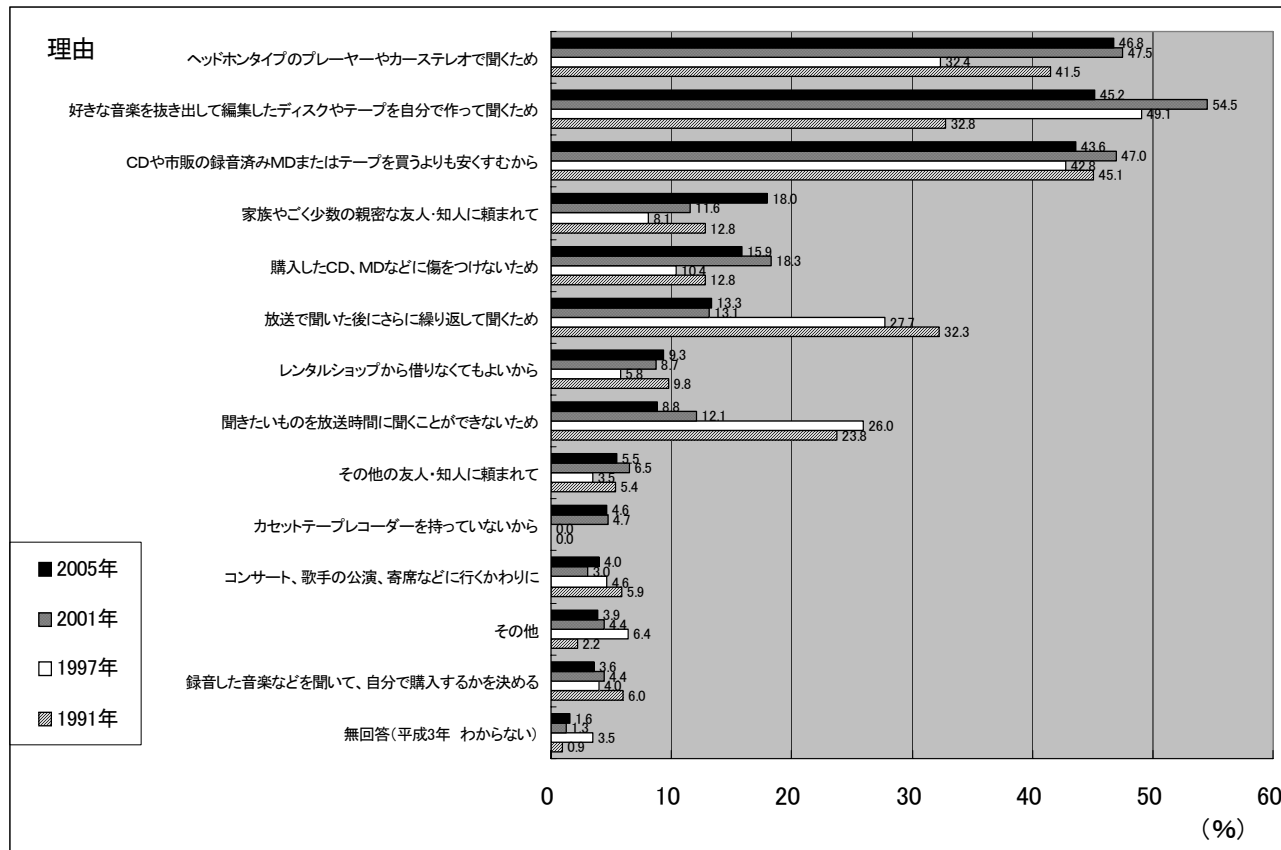
デジタル録音の音源別の総録音回数比率



③ 私的録音の理由

- 「ヘッドホンタイププレーヤー等で聞かため」、「好きな音楽を抜き出して編集して聞かため」、「市販のCD等を買うより安くすむため」の3つの理由が飛び抜けて高い。
- 好きな音楽を好きな場所で聴かために録音を積極的に活用する一方で、市販のCD等の購入の代替手段として録音を行う者も相当数いることがうかがえる。

私的録音を行う理由(複数回答)

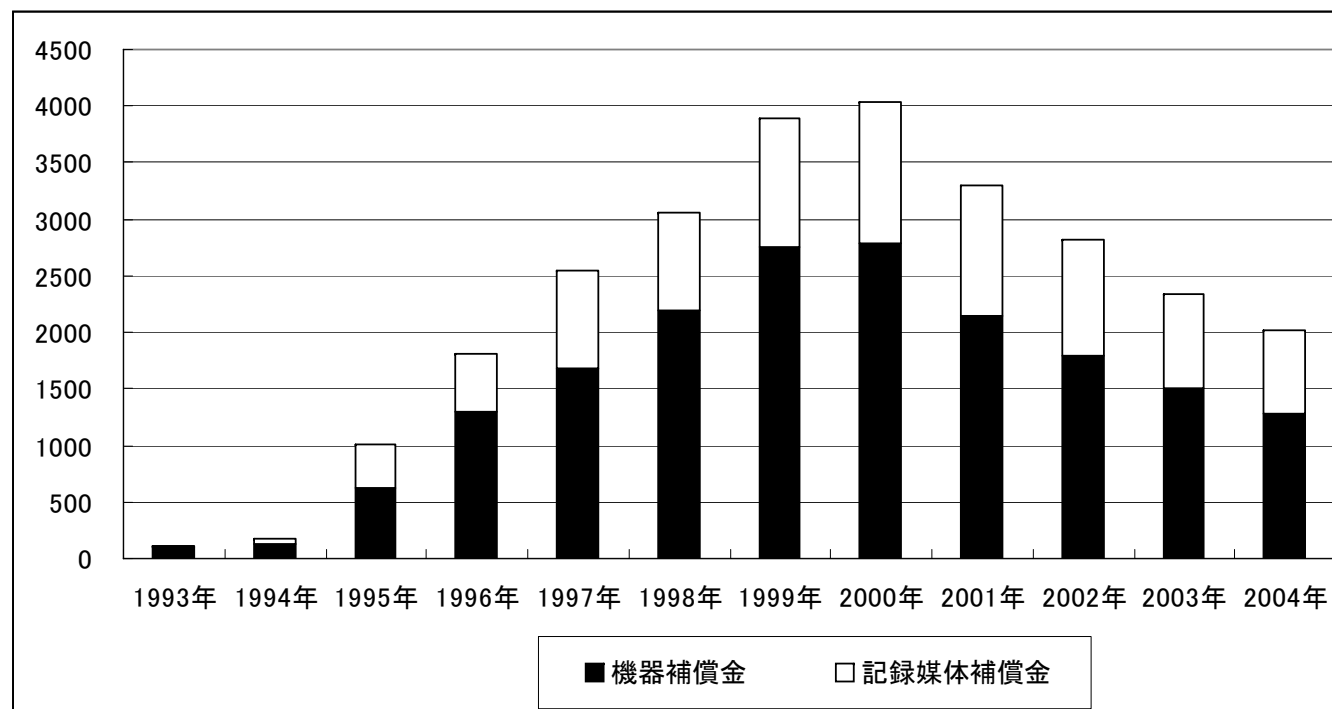


(出所)「私的録音・録画に関する実態調査」(平成3年、私的録音録画に関する実態調査委員会)、「私的録音に関する実態調査」(平成10年、平成14年、平成18年、私的録音補償金管理協会)をもとに作成。

(備考)平成3年はアナログ録音、平成9年以降はデジタル録音に限定して調査を行っている。

④私的録音補償金の総額

- 記録機器に係る補償金及び記録媒体に係る補償金ともに、2000年をピークに下落傾向。



(単位: 百万円)

年度	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
機器補償金	90	129	632	1,293	1,686	2,198	2,755	2,794	2,151	1,796	1,499	1,286
記録媒体補償金	25	53	375	521	865	860	1,139	1,243	1,152	1,028	840	732
合計	115	182	1,007	1,815	2,551	3,058	3,895	4,036	3,304	2,824	2,339	2,018

(出所)私的録音補償金管理協会のデータをもとに作成